



國家圖書館編

東亞同文書院 中國調查手稿叢刊

194



國家圖書館出版社

六月三日

六月四日



國家出版基金項目
NATIONAL PUBLICATION FOUNDATION

國家圖書館編

東亞同文書院
中國調查手稿叢刊

194

國家圖書館出版社

第一九四冊目錄

昭和十八年（一九四三）調查報告（第四十期生）

（太倉）縣政調查

（太倉）縣政調查 關屋重政

（太倉）經濟（工業調查）

（太倉）經濟（工業調查） 久保田穰

太倉縣下の訓練、出版物、宣傳及宗教

太倉縣的訓練、出版物、宣傳及宗教 山本孝雄

（太倉）治安調查

（太倉）治安調查 內倉吉憲

(丹陽)宗教

(丹陽)宗教 柘植大六 二七九

丹陽縣清鄉工作黨務概況

丹陽縣清鄉工作黨務概況 川崎謙吉 三〇一

丹陽縣雙廟鄉史家村及同縣中仙鄉韋家坂に關する社會的考察一斑

對丹陽縣雙廟鄉史家村及同縣中仙鄉韋家坂的社會考察之一斑 宮田一郎 三五七

(丹陽)金融調查報告書(附通貨・物價)

(丹陽)金融調查報告(附貨幣、物價) 丸川辰生 三七七

丹陽縣縣政調查報告

丹陽縣縣政調查報告 松田又一 四二七

丹陽縣金融調查報告書

丹陽縣金融調查報告書 田中重信 四七九

丹陽縣

丹陽縣 南里誠治

五五三

丹陽工業實態調查報告書

丹陽工業現狀調查報告書

甲斐照敏

五六七

大旅行調查報告

(五十四三年)

大倉班 縣政調查

學部第二學年

關屋重政

(一) 總説

① 全縣の位置、面積、総人口、地勢

太倉縣は上海市から北西約六〇キロの地矣。無錫へ通ず。

所謂錫滬公路上の一要衝たる太倉縣城附近の矩形の一

角として北側揚子江岸岸りに拓き東西約九十支里南北

約六〇支里面積約八十三万畝余人口約三〇万余と包

擁する一帯の地域でこの太倉縣の管轄下にある行政区劃

は其の地續き關係が南部側は嘉定宝山兩縣境に西部か

崑山縣に北部は常熟といつた諸縣が其の接壤地となつて

居り東北部一帯は揚子江河に岸の一部を形成してゐる。

而して此の地域の経済地理的地位は揚子江デルタ地帯	として水陸交通網の発達がかかり高度化してゐること	よって特色付けられる。陸路にては幹線としてハ錫滬公	路と太劉公路があり前者か一方は嘉定上海に奥地は	常熟無錫へ。而して後者は劉河鎮と太倉縣城と連絡する公	路であり一方は太崑公路として崑山蘇州方面に他方は宝	山縣から吳淞を経て上海に通じてゐる。これに対し縣下	の主要なる交通路となつてゐるものは水路であつて戚浦	楊林瀏河塘の三大水路は縣の東西を三分して揚子江に注	ぎ戚浦塘は常熟より七河口に出で楊林塘は崑山より柘林
--------------------------	--------------------------	---------------------------	-------------------------	----------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------

口に注ぎ瀏河塘は区域方面より瀏河口に注いでゐる。而し	て塩鉄塘か錫滬公路に沿ひ右の東西三幹線と南北に縦貫	する幹線である。	(12) 外國の影響は少い。	(13) 失學兒童率七五% 文盲率八〇%にして蘇北に比しては	文化程度高し。	(4) 重慶政權の影響はあまりなきも、新四軍の影響は相當	あつたが、清郷工作により一掃され、及清郷工作もあま	り強くない。	
----------------------------	---------------------------	----------	----------------	--------------------------------	---------	------------------------------	---------------------------	--------	--

4

號	に	基	き	特	別	區	公	署	を	撤	消	し	新	規	定	に	よ	る	縣	政	府	を	組	織
民	國	三	十	一	年	二	月	一	日	江	蘇	省	民	政	廳	密	令	民	字	第	二	十	一	
他	を	は	か	る。																				
民	國	二	十	八	年	五	月	十	六	日	洪	知	事	着	任	し	極	力	財	政	の	平	常	
成	に	主	力	を	注	ぎ	し	も	不	幸	行	方	不	明	と	な	る。							
縣	公	署	成	立	し	黃	頌	聲	引	續	き	縣	知	事	に	就	任	し	保	甲	制	度	の	完
六	自	治	區	に	分	ち	縣	政	の	復	興	に	一	と	表		同	年	七	月	一	日	太	倉
倉	陷	落	以	來	各	地	に	孫	生	せ	る	治	安	維	持	會	を	解	散	し		縣	内	と
(5)	民	國	二	十	七	年	三	月	十	三	日	黃	頌	聲	自	治	委	員	會	を	組	織	し	太

東亞同文書院大學學生調查大旅行指導室

局は縣政府外にある。	が残りてゐる。又合署辦公制も行はれぬ。教育局警察	裁局改科は完全に行はれて居らず。現在教育局警察局	(I) 縣政府の機構	(二) 縣制	勳新縣長として就任し現在に至つてゐる。	漸く安居樂業に就いた。翌三十二年五月縣長交迭し唐劍	月清郷開始されて以來治安は殆ど完全に確立し。民衆は	し省政府の指揮下に入つた。縣長沈靖華就任す。同年七
------------	--------------------------	--------------------------	------------	--------	---------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------

內 部 組 織 系 統 表									
縣長 (唐劍勳) 第一科 (汪景雲) 公安 (王卅懷) 衛生 (全曜弘) 教育 (周棟花) 民政 () 自治 () 財政 () 秘書室 總務 (黃連超) 外事 () 文書 (高 耀) 會計 (蔣連慶) 庶務 (全靜安) 監印 (戴祖堯) 統計 (陳 輝) 收發 (沈 祥竹)									
第二科 (楊雲天) 農工商 (王士能) 度量衡 (徐洪業) 財政 (錢敬梓) 建設 (王定、謝欽唐)									

指導員(沈永琦)		督察(孔振威、陸受祉、馬祥平、陳耀東)	
保甲室(莊景雲)		編查(朱山松、蘇、潘敏、王北奎、陳秀廷)	
宣傳科(梁石溪)		保甲(王秉勳)	
軍法處(王景雲)		自衛(顧雲達)	
會計主任(龍果果)		稅務(沈洪波)	
會計主任(龍果果)		事業(王修耕)	
會計助理(朱化錦、胡崇沐)		張祖瑞	
自衛指導員(王秉勳)		指導員(錢寶琳)	
警察室(華訓義)		教育局(張樂生)	
賦稅管理處(李鏡)			

附屬機關として伝染病防止のために防疫委員會がある	その組織は	委員長 縣長	委員 警察局長 區長 縣政府衛生係員 醫師	守備隊防疫員連絡官防疫員その他に協力する	(2) 縣政府の人的構成	(1) 總説	經費難により人材は收入の乏しい方面に吸収され殆ど三	流四流のころ人物のみにして興亜の理念等は縣長が	たりは熟知するも科長以下は殆ど有せず日本例に頼つて
--------------------------	-------	--------	-----------------------	----------------------	--------------	--------	---------------------------	-------------------------	---------------------------

つて
わ
る
事
言
ふ
さ
俟
た
う
い

(10) 縣政府構成者の分析

	職別
	縣長
	第一科長
	第二科長

氏名
唐劍勳
汪景雲
楊雲天

本籍	江蘇省淮陰	太倉	太倉
----	-------	----	----

[illegible]

學 歷	江蘇警察學校及 訓練所卒業	上海市地方自治
前 職	門師範畢業	
中央大學工學院 卒業		

職業
上海市公安局督察員。清鄉
歷任浙江桐廬縣政府技正
太倉縣虎部執行委員

[illegible]

東亞同文書院大學學生調查大旅行指導室

年 齡 別	
二十才未満	三才台
二十才以上	五%
三十才台	三五%
四十才台	四〇%
五十才以上	
出身地別	
他縣	者殆どなく七十%は太倉縣出身なり。
(ハ)任用	
(ニ)大學校卒業者は科長	専門學校出は科員、中學校出は
(ホ)辦事員に及ぶ程度なり。	
(ヘ)縣長の任免手續として以前は部隊長特務機関長憲兵	